希望の会報告(2025年8月29日)

　2025年8月23日土曜日、｢地域福祉を推進するルーテル学院大学卒業生の集い•希望の会｣主催の研修会が開催されました。

<https://www.dropbox.com/scl/fi/r374c958bj09oe9e1mkk9/R7-20250609.pdf?rlkey=oulsnwwsbu8ydcbq6rt0e6stk&dl=0>

　多くの卒業生、教員がルーテル学院大学ブラウンホールに集まってくださいました。

今、社会福祉をめぐる環境は、激変しています。第一の問題は、生活課題の深刻化していること。経済的格差や社会的孤立が顕在化し、複合的課題のある世帯、家庭内虐待、犯罪、特に若い世代の自殺、消費者被害などが広がっています。このような状況に対して、第二の問題は、従来の福祉制度に限界が見られ、新しい制度設計が求められていること。４つの区市で介護保険制度の検討を行っていますが、介護保険制度だけで、高齢者の直面する課題は解決しません。生活困窮者自立支援法、共生社会の実現を推進するための認知症基本法や困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性支援新法）、身寄りのない方々への支援等、きちんと定着させねばなりません。また、介護保険法だけを念頭に置いた高齢者保健福祉計画は成り立たず、老人福祉法等の関わりを検討する必要があります。そして、第三の問題は、ソーシャルワーカー、ケアワーカー等の人材不足と、専門職が疲弊しているのではないかという危惧。

以上の状況にあって、私は３つの視点が大切だと思っています。第一に、困難に直面した時に立ち戻る自らの活動の原点に立ち返ること。そして、ソーシャルワーカーとして、果たしてこられた役割を確認し、それが弱っていたのなら、何としても機能を取り戻すか、それに代わる行動を生み出していかなければなりません。

今回の希望の会では、名誉教授の前田ケイ先生にご講演頂き、ソーシャルワーカー、専門職教育の原点に立ち返ります。ケイ先生は、いち早く1955年コロンビア大学大学院でソーシャルワークを専攻なされ、また1977年に本学の専任教員になられました。当時、社会福祉の代表する専門職は生活保護のケースワーカーで、高齢者福祉、障害福祉等は福祉５法担当として一括りにされていました。また福祉教育界では、社会福祉の専門的知識・技術を教える学問分野に対する評価は決して高くはありませんでした。そのような中で、先生は困難に直面する方々を支援するソーシャルワーカーを育てるあらゆる方法に挑戦なさいました。学びたいと思います。そして、2025年（令和7年）7月にSST普及協会の30周年記念大会で同協会より、特別功労賞を授与されました。皆でお祝いの言葉を送らせて頂きました。

前田先生のご講演は、桑原信人氏(全国社会福祉協議会:1957（昭和32）年コロンビア大学大学院修士課程卒業（MS）後、1959（昭和34）年全国社会福祉協議会国際部に勤務なさり、国際社会福祉会議の事務局を担当なさった頃を中心に)、竹内もみ氏(所沢市地域包括支援センター: 1977（昭和52）年日本ルーテル神学大学教授、キリスト教社会福祉学科長として就任なさった以降のソーシャルワーカー養成教育のご苦労、大学院創設の思い、実習を強調した教育の意味を中心に)、本多君(在学生:これからソーシャルワーカーとして在学生が羽ばたいていくためのアドバイスを中心に)が質問する形で進行しました。

私は、94歳の先生が、第一に今でも現役のソーシャルワーカーであり、研究者であり、教育者であること、第二にSST等の研究を続け、本を出版され、研究、実践に関して研究意欲をもっておられること、第三に社会における問題を認識し、その改善に絶えず挑戦し、今でもソーシャルワーカーの原点を大切にしておられることを学び、感動を覚えました。これは、参加した方々が共通して思ったことだったと思います。

第２に、私たちはこれから歩むべき社会を描くことが求められています。我らの仲間である御牧さん、河島さんから、取り組んできたこと、また実際に取り組んでおられることをお聞かせいただきました。御牧さんは静岡県立静岡がんセンター疾病管理センターよろず相談主幹であり、根っからの医療ソーシャルワーカーです。日々、特に癌の治療を受けている方々の相談を受け止め、情報提供、復帰等の支援等を行っています。それは一人ひとりの命に間向かい、一人ひとりの存在を大切にした取り組みだと思います。

また、河島さんは、練馬区社会福祉協議会に約30年間勤め、地域で孤立している方々が一人の人間として生活できる地域関係をつくり、また地域を耕そうとしている方々の活動を支援してこられました。現在も、保護司、SSTの講師として活躍しておられますが、河島さんの支援の目の前には、必ず住民の実像がある。その原点は、一人ひとりの存在を地域で守ろうとする姿勢で一貫しています。

前田ケイ先生、御牧さん、河島さんのご講演より、ソーシャルワーカーとして目指す希望ある未来の姿をご一緒に描くことができました。

その結果、第3の視点、すなわち幅広い協働が成り立ちます。ルーテル学院大学・大学院で学んだ方々のそれぞれの取り組みを学び、互いに励まし合うこと。卒業生はブランドです。卒業生の方々の働きに私は最大限の敬意を表します。

また、ルーテル学院は、新入生の募集を停止しました。この事態に対応して、最後の卒業生を送り出すことを目指して、現職の教職員の方々は、必死で取り組んでおられます。感謝の気持ちをもち、応援していきたいと私は思っています。

講演後、グループに分かれ、自己紹介を行い、講演の感想、これからの必要な挑戦等を述べ合いました。

そして、全体のまとめとして、ルーテル学院大学名誉教授和田敏明先生に総括をお願いし、「ルーテル・希望の会」幹事桑原信人氏の閉会の挨拶をもって、2025年の希望の会の研修会を終えました。

和田先生がおっしゃったように、一人ひとりが問題に挑戦してきたことは、ソーシャルアクションそのものであり、私たちには問題を問題として感じ、それに対して、様々な方法で解決を目指す共通のルーツがあり、それがルーテル学院大学、大学院だと実感した1日でした。

最後に、この会の準備、運営を担った、幹事である、飯島ともえ氏（相模原市社協）、池永雄一郎（羽村市社協）、河島京美氏（元練馬区社協）、駒井公氏・桑原信人氏（全社協）、関根裕恵氏(元西東京市社協・一般社団法人よしみをむすぶ)、山本繁樹氏（立川市社協）、原島博（ルーテル学院大学）に心から感謝いたします。